

四国西予ジオパーク「狩浜の段々畑」



佐田岬半島から南宇和郡にかけての南予一帯は、全国有数のミカン産地として有名ですが、今回、狩浜地区の段々畑の景観が「四国西予ジオパーク」として認定されました。

明浜町狩浜地区は、当地区の地層から採取される石灰石を活かした白い石組みの段々畑が整然と広がり、みごとな自然との景観を作り出しています。

自然と人間が長い年月をかけて造り上げてきたこの段々畑は、城の石垣を思わせ、春は黄色の菜の花、夏は真っ青な空と宇和海、秋は金色のミカンといったように、四季ごとに美しい景観を我々に見せてくれます。

しかし、その段畑の歴史は、過酷で宿命的な自然環境（狭隘で平地が少ない）と住民の汗との共同制作の結果でもありました。一般的に、室町・安土桃山時代の頃より段畑が造られ始めて、江戸期（350年ほど前）から明治期にかけて、その耕地面積は飛躍的に増加しました。

古くは蠟の原料となるハゼが栽培され、そして桑、麦などの作物へと変遷し、地域の産業・暮らしを支え続けてきたのです。今では主力の温州ミカンの耕作地として整備され、地域の文化歴史の象徴として存在し続けています。

今回、ジオパークに認定された白い宝の石を積み上げて出来た美しい景観には、宿命的な土地環境を受容して、辛抱強く地域を維持してきた先人達の歴史があります。

南予人の素直さ、辛抱強さ、明るさの気質が自然と共に静かに息づいています。

地域文化と密接に結びついた段々畑に対して、私たちは先人たちの汗と知恵に敬意を表し、将来に繋いでいきたいものです。